

ゆき 四三五

副官



参事官

軍令部長



次長



作戦班



發付

四月日

日起案

局員

第一部長

局長



底ヨリ申出、義モアツタ

海軍

1708 1707 件

軍令部長



次長



作戦班



副官



参事官

四月日

發付

三月八日 起案

大臣

軍務局長

局員

次官

經理局長

主任局員

總政本部長

第一部長

局長

電案

大連湾防備隊司令部ヨリ申出、義モアリ

毎頁

1708 1707 件

ルニ付老鉄山燈台實地見分、序ヲ以テ便
直南三山島燈台、應急修理及吳燈等、
關スル見込ヲモミテ、何分、義申出ツレ

三十一年四月一日 大臣

旅鐘長官宛

電案

南三山島燈台、老鉄山燈台實地見分ノ
序ヲ以テ應急修理及吳燈等、莫スル見込
ヲ立テモ、一キ台、旅順鐘台、府ノ令モ、
ナ、初令サレ
タリ、遇、岩及險礁、立標設置ハ、才際先ツ、
實
施セザル考ナリ

三十一年四月一日 次友

件

1709

大連歴代領地ノ沿革

海

軍

1710

軍務局



電澤 三月二十四日

次友 大連港の海況は

先般陸軍の運送船、内地より大連に

入港セントレテ 遇岩に坐礁するコトア

リ又大連東口への港スル航海者、険

礁の危険に感ずるモノナリ故に官制船

船特許船ノ大連及普口に航海ス

ルモノ、为メ南三山島に燈臺設置

1712

1711

大連

中野

三ノ

徳島海防ノ旨

船ノ内地ヨリ大連ニ

名ニ坐礁ラハルコトア

漢ノ航海志ニ漢

ノナリ故ニ官制秘

世及昔古ノ航海ノ

山島ニ燈臺以置

1711

中三島見景記

舟山記

舟山記

1712

舟山記
徳島藩
舟山記
舟山記

險礁及遇山岩ニ立標建設ノ必要アリ
ルモノト認ム存主ニ委シ奉止ス

1713

電 報 送 達 紙

局 着	局	發			名 氏 所 居 人 信 受		
取受者信	信受	付受	第	局	報	<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;"> 〇 〇 〇 </div>	
分	分	日	號	局	報		
指 定				<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;"> 〇 〇 〇 </div>			
事 記							
注 意				名 氏 所 居 人 信 發			
他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ 符簿ニ記シテ配達シタル電信局所へ返戻ス シ決シテ其受取人本人へ直送シヌハ手渡シスベカ ラズ				<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;"> 〇 〇 〇 </div>			

1714

電 報 送 達 紙

局 着		局			發		名 氏 所 居 人 信 受	
取受者	信受者	付受	第	月	日	報	友	
	時	時	號	分	分	局		
		定 指					名 氏 所 居 人 信 發	
		事 記					<p style="font-size: small;">他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ</p>	
		ラズ						

1716

軍務局長

局員



海軍

案

老鉄山燈台修復の所を其ノ技術に就テ
付ノ実シテハ 軍才五五号ヲ以テ及田吉重臣
毛有シテ其ノ高木氏及川以テ大連港に於テ
南三山燈台並枝順に於テ老虎尾及白皇山燈
台ヲモ害者セシム事ヲ以テ節 別合に成テ其ノ
重臣等が以段更及田吉重臣

辛酉年四月一日 海軍省事務局長

航路標識管理官 吉重

件 1717

130-100

大連湾口南三山嶋塔台修築中其附近ニ塔

電信案

海軍

副官



參事官

發付

目録

此八年八月イニ日起案

大臣

次官



軍務局長



局員



經理局長



主任



艦政本部長



第二部長



會計課長



發行所



1718 件

第一夏假設方通信省へ依託シ置キタル処々
ヨリハ必要ノ材料ヲ調達スルコトニ向ケタルニ付概付ノ事
ハ便宜具存ニ於テ施行ス可シ所要地費日數及点燈
ノ費支ナキ時日・燈高・視域等報告ス可シ又該燈塔
ニ要ナル點燈用品ハ總テ白玉山尾角尾燈台ノ物品
ヲ以テ一時像台ニ使用スル事ト心得ヘシ

明治三十八年八月十三日

大臣

海軍省官宛

1719

軍務局長代



電報案

大連湾北南三山島假設燈竿用品賣付
送券付ハ宛昨日汽車便ニ送送ハ旨既路標
鐵管理所長ニ通知アリ該品着上ハ最近
便ヲ以テ大連ハ送付方取付ハ度

三十八年八月十三日

津鎮秀 總長 陸軍部 陸軍省 陸軍省 陸軍省

電報案

南三山島燈台燈竿用、燈竿折射島城附屬
 島共一個ニルル火口一個平橋廻一箇昨日沙世保
 二向ヶ落送七ル既跡標済五理所長ヲ通知
 了、沙世保ヲ最近便ニテ方連^{海防隊}送致、告知ルニ
 被島ハ一階既跡標済管理所ヲ借用シタルモノナ
 ル、現島高島次少佐所長ニ宛テ、ル備用河者、
 差出^{出立}書^書ハ、橋取付ハ、度又設計書圖面等、都送下
 三十八年八月十三日 軍器部長
 旅鎮長湯長丸 吉田清時 吉田清時

案

別紙南三山場殿故壇等設計書四面一
枚及點燈用品調書及以迄台帳也

辛酉年八月十三日

軍務局長

銘記名簿長官

軍務局長
第三三三號

三

出中令名會社印行

件 1722



一〇二五

今取市依托... 燈設置用品本日汽車... 佐古保鎮守府... 費及送致... 又大物不... 所用... 借用... 取斗... 取...

辛酉航路標識五段形表

元各票...

海軍省軍務局

岡野中佐及

一燈竿折射器械

吉個

作
属品

こころいふ口

吉吉
個個

平
控
廻

大

舟車本言

1724

軍務

經理局

局員

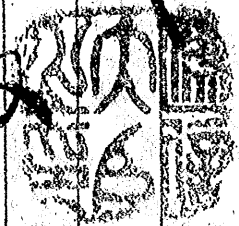
管第一二三號

大連湾口南三山島燈臺
 修工事一併燈設置ノ件
 本件存貯所自下付友房操
 案第百八九五號一ラ以テ在
 ノ趣ニラカシクハシテ工
 於手施工有可ハ方修工上存
 必要ノ材料一調達ノ事委託
 就テ航路修工事管理在ノ趣
 致者下ノ本件設計書
 費係員書及同書外所及送
 付ハ除也
 四九〇也

機密第一八九號

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

通江左主上浦西武



海軍大臣田島壽一少将機務部

此等物件係海陸軍之要品然其
用途係供作戰用之品其
種類甚多如白玉石及老
稀尾地等物其種類甚
多且其用途甚廣其
用途係供作戰用之品其
種類甚多如白玉石及老
稀尾地等物其種類甚
多且其用途甚廣其

南三山島假燈設置

設計書

一 南三山島ノ南方ニ存在セル
欽田筒ノ燈塔ニ利用シ
其上部、燈竿トシテ
付所要ノ方向ヲ照輝スル
トス

一 燈竿「レ」ス 振付ハ別番ノ如ク
第一著「ク」ナル臺木ヲ同筒
頂上ニ現存セル地西襖板上ニ据
一 臺木ニ示ス南北線ヲ四維針
儀ノ南北比下一致セシメ而シ

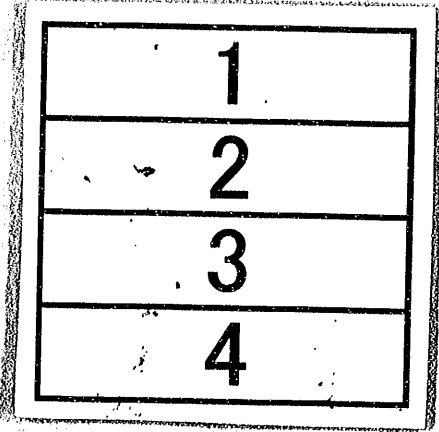
才 臺 木 少 地 面 復 板 釘 付 ト シ 臺
 木 植 込 ム 鉄 口 ボ ー ン ト ニ 本 少
 以 少 燈 竿 一 レ コ ス 少 水 平 取
 心 少 ト ス

通 信 省

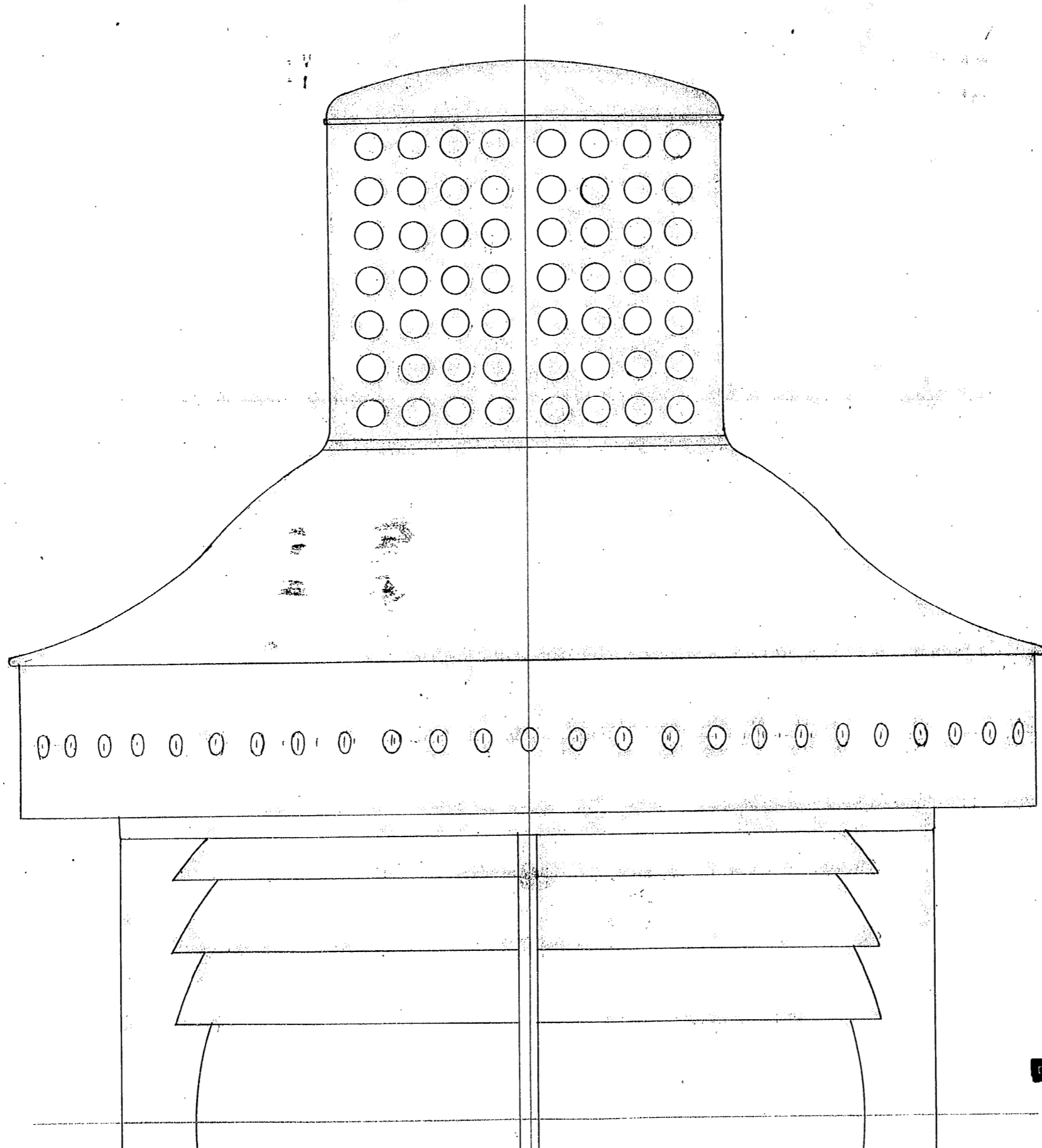
逓信省經理局活版工場印刷

1728

分割撮影ターゲット

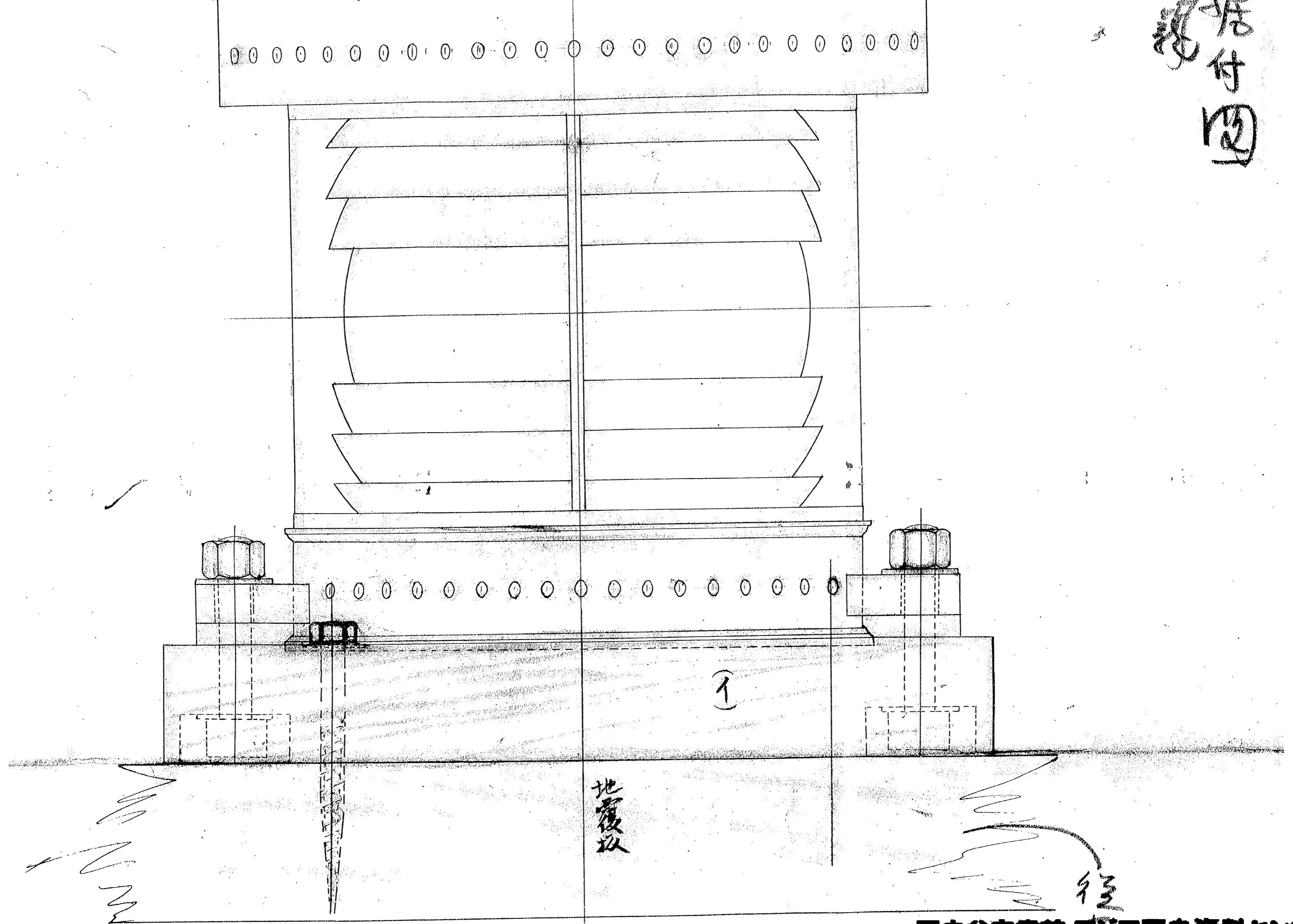
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1729
1730
1731
1732



南三島倣設燈籠
燈籠
用拵付圖

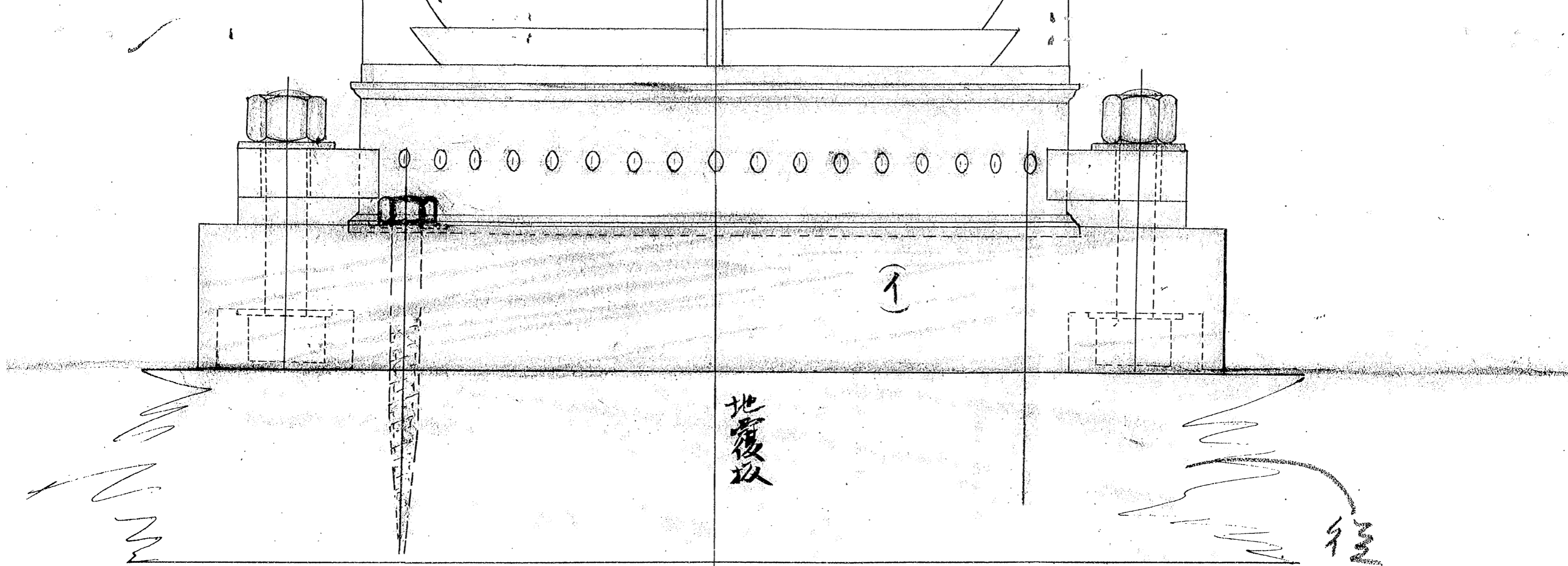
附圖



イ

地震板

イ

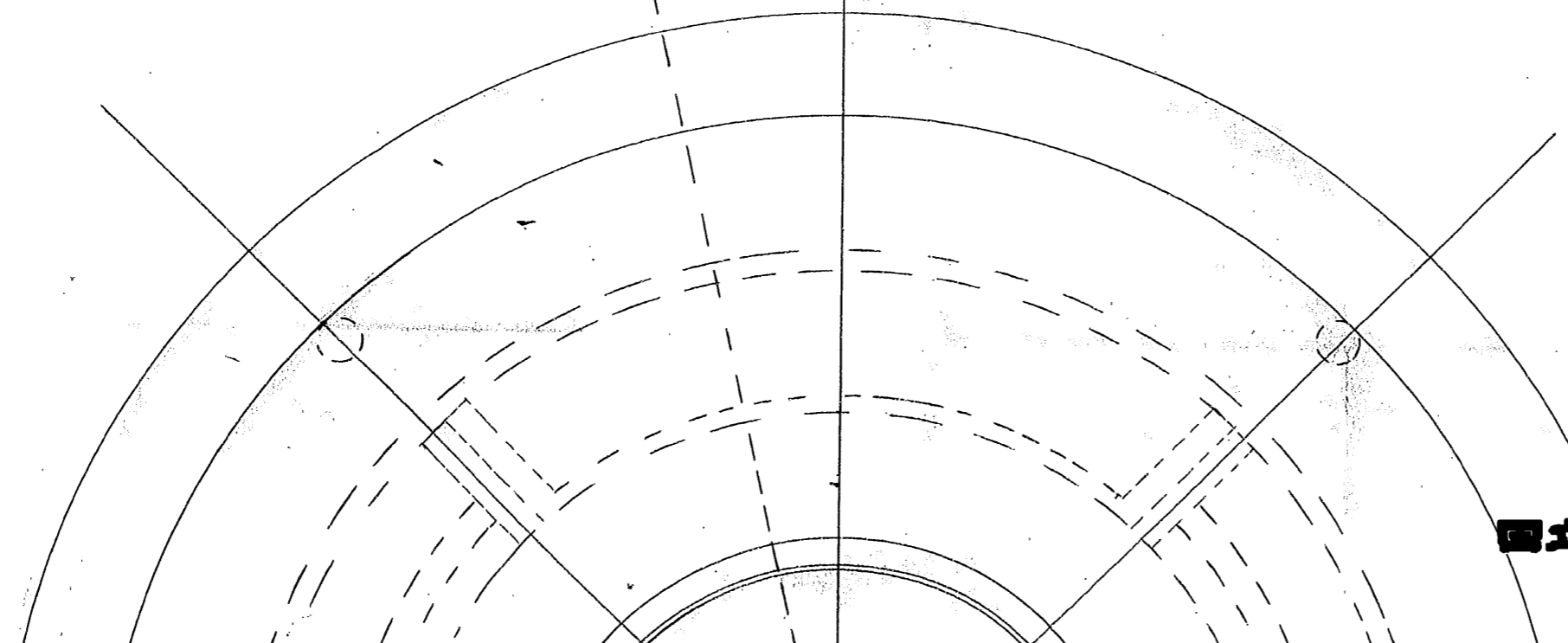


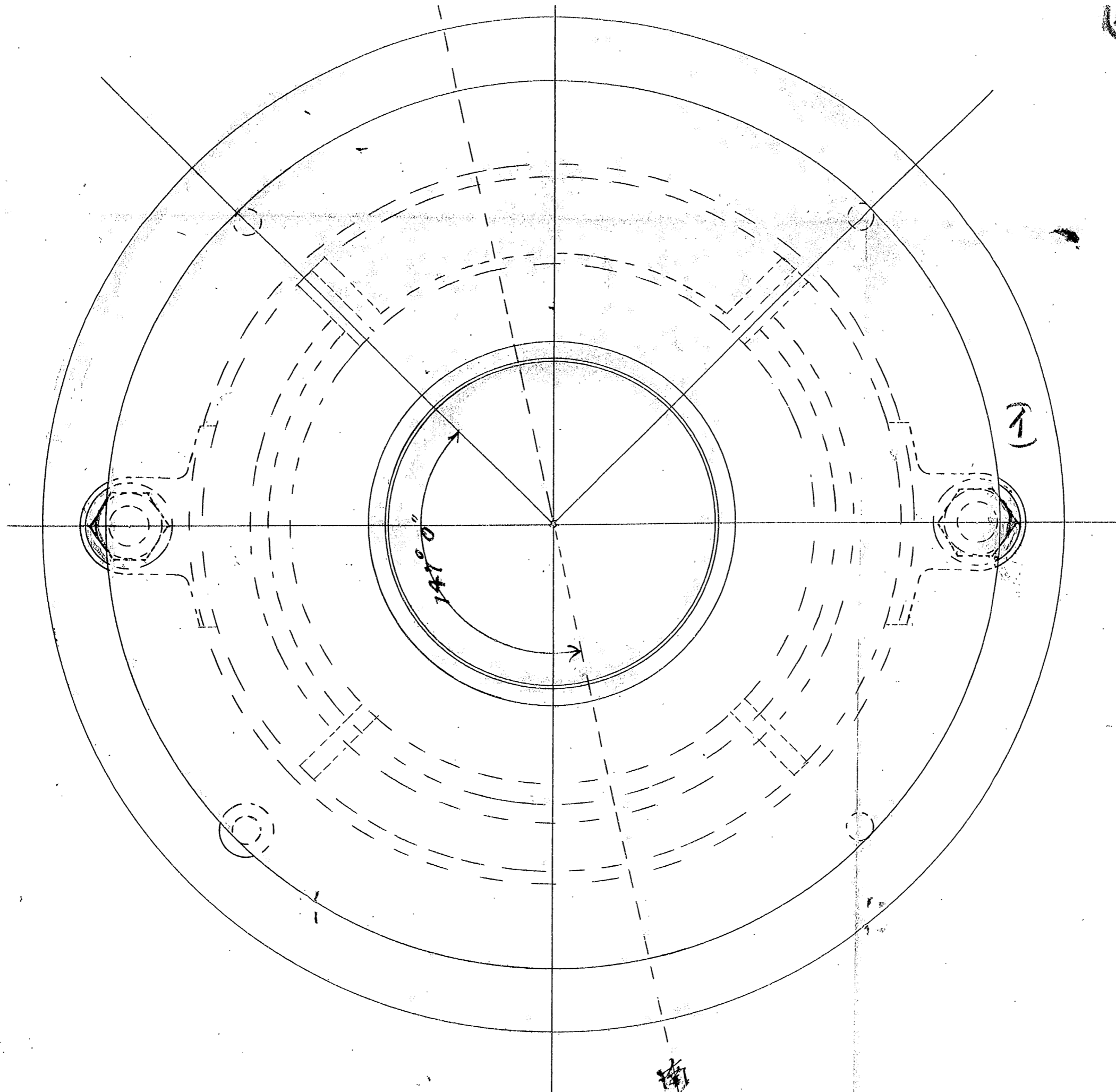
地震板

往東

鉄田舎

北





乙 號

南三山島假燈設置費

豫算書

一金百貳拾圓

譯

費

目

金

額

燈竿口ニ及付屬品修繕費

壹五

〇〇〇

右ノ河造及運搬費

壹〇〇

〇〇〇

雜

費

五

〇〇〇

備考

一燈竿口ニ及付屬品ハ航路

標識管理所ノ在庫品ヲ繁

壯日充用ス

1733

一 運 搬 費 の 横 濱 日 佐 世 保 迄
 ヲ 計 算 其 以 往 の 船 運
 御 用 船 之 據 此 迄 ノ ト ス
 一 現 場 振 付 之 係 ル 費 用 之
 除 ク

通信管理印刷版工場印刷

1734

丙 號

南 三 山 島 假 燈 點 燈

用 品 調 書

點 燈 用 器 具 一 部

油 品 注 名 點 燈 用 器 具 一 部 點 燈 用 器 具 一 部 點 燈 用 器 具 一 部

品 名 數 量 品 名 數 量 品 名 數 量

百 甲 度 以 右 油 貳 拾 四 瓦 第 一 盾 參 斤 量

白 色 單 心 火 舍 拾 貳 本 不 綿 塵 拭 參 斤 量

心 燈 心 四 枚 毛 織 塵 拭 參 斤 量

摺 付 木 拾 五 箱 貳 斤 量

備 考

1735

一本調書ノ消耗品數量ハ凡四
ヶ月分ヲ豫算セシモノナリ

辺
行
行

逓信省經理局活版工場印刷

1736

軍第三九號

130
15

海

陸

軍

海

陸

軍

海

陸

軍

海

軍務局

局長



海

陸

案

奉命山島後設燈塔用航材需械志式
二廉、対充借用証及送付也

三年十月迄、海軍省軍務局

取送標符番印宛

(原 綴 類)

17

1737

七
修
平

軍務局

海軍第一二一九號

海軍省海軍部

海

軍

南三山島假設燈竿用燈竿折射器

械(附傳不在)外二條航路標識管理

り送附之現品到着矣二付一月十三日

貴守令ヨリ本府参謀長宛電報之通り別

紙借用証送附矣條可也而取計在牛年

元此少及而照會矣

昭和二十一年十月四日

旅順口海軍主任部

海軍省海軍部

1738

文書番号

日 期
二 月 二 日

五

1739

件 1739

軍務局

局員



經理

主任 加藤 六郎



光緒二十九年丁未三月

軍務局

案
光緒二十九年九月
三山島燈臺用
取成標簿
有之
及
借
用
証
書
等
件
及
送
任
務
也
今
般
返
却
也

旅順口海軍支隊部宛

三十九號
三

軍令三九號

軍務局

號會第一二四四部

南之山島艦隊任務用トシテ各艦隊九月廿日迄以俟
ハシ艦隊司令折敷三右衛門ヲ以テ彼海軍技術員
井有テ予全艦隊任務ノ事ヲ任セテ其ノ任ニ當ラセ
テ之ヲ以テ該艦隊司令官ノ任務ヲ任セ及以テ
之ヲ以テ該艦隊司令官ノ任務ヲ任セ及以テ

局員

航路探検管理所

海軍省軍務局

フナ

別紙借用記帳帳目三十一部ノ部ノ部

元各中蔵書目録

二平

1740

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

舟車本言

1741

180
100

軍務局

軍務局

軍務局

大連湾南三山島燈台ノ三五

大連湾南三山島燈台ノ設置ニ要スル經費日数

及ヒ其燈差支ナキ時日燈光視域等報告スルキ

旨電報新令有之右設計書及圖面一昨

二十二日到達付取調為致候處据付工事費

概算金拾五圓ヲ要シ工事日数ハ着手

後三月間ニテ完成スル見込有之候然ルニ右着

守ノ番舎等トシテ目下拮据競争手續中

係ル番舎ノ修築出來ノ後ニアラサレバ他

使用セラルル無之而シテ該番舎ノ修築

竣成工後約一月ヲ要スル旨ニ付其燈

原簿

1742

時期九月下旬、可相成又燈光視域、
目下調査中、有之追テ調査済、上司令
長官ヲ報告可相成候、共不取敢右貴
官迄及市通知候也

明治三十一年八月廿四日

至利旅順鎮守府參謀長



齋藤海軍次官殿

軍令部長 

大長 

作戦班 



副官 



参事官

發付


八月日

廿八年七月廿七日起案

大臣

次官 

軍務局長 

局員 

經理局長 

主任局員 

人事局長 

局員 

勝 



大連湾口南三山島燈台の目下修築中

案

官房機密第 九五號

毎 頁

〇件

1744

ノ電線工事後成ニ至ルマデ、間回所假燈
トシテ燈竿一基假設、必要ヲ認メテ自
給是亦責責、依此防度此後及思慮
美也

明治三十八年七月 大臣

逕信大臣宛

通テ右ニ要ルル燈竿及具附屬品等ハ
好借用ノコトニ致度該品等ノ運搬ニ關シ
テハ依此法ヲ當省ニ雇上船ノ便ニ依ルニ
テ脚計画、上級計畫及設置ニ要ルル費用
等概算取調、上御送付ヲ得度美時又
修築中、本燈臺後成迄ニ要ルル燈竿、点
燈用品、數量兩回示方致カレテ申付也

電燈案

大連湾口南三山島燈台修築中其附近之燈
第一基假設方通信省へ依託し置かるルニ付
此旨想傳談燈第一番官員一名、宿舎等ハ
便宜同島内ノ建屋物内ノ一室ヲ利用スヘシ

明治三十八年七月一日 大臣

陸 鑄 長 官 宛

電燈案 第五號

大連湾口南三山島南端ニ假燈トシテ燈
第一基設置スルニ付談之事ハ總テ通信
省へ依託相成ヌニ付之ニ要スル人員材料

物品等貴重地、目的地へ運搬力に關し、積載高
に於て、適宜運送船、便り共、より、
新廣此取申進者也

明治三十八年七月一日
次官
濱鎮參謀長宛

新廣此取

1747

機密第三三三號

軍務局長



局長



海

軍

學

大連湾口南三山島燈台、目下修築中、延
緩工事、遂成二、三、月、間、後、修、築、一、星、回、所、
以、是、古、遠、信、者、一、依、托、在、成、其、案、此、段、
公、通、知、也

明治三十八年八月

一日

軍務局長

水島元吉宛

(印) 水島

件 1748

海軍

東野高

馬貞

海軍

電案

卷ノ南三山島ニテ後來氣象觀測ヲ為サ

ニシテ討便ノ目下ノ至無

三ノ年九月

軍務局長

大連艦隊司令部

海軍

1749

山田金名堂印刷

